

## 柏崎刈羽原発再稼働の是非

一旦大事故が起こってからでは、取り返しのつかないことになることを福島第一原発が教えてくれています。

311では、想定外の大津波が発生し、今後も想定外の大地震の可能性は0ではないので、対応が必要です。

事故の可能性0なら問題ないが、0.01%でも事故の可能性があるなら、補償内容を決める必要がある。

想定外の大地震にも故障しないシステムを構築したので再稼働を行う。

想定外の大震災では故障する可能性があるので再稼働を行わない。

想定外の大震災では故障する可能性があるので十分な補償を用意する。

東電は技術検討不足をお詫びし、退職金なしの役員の総辞職。

東電は避難住民の10年以内の完全帰還を約束する。

決めておいても、使う機会がなければさらによし。

東電は放射線被爆死亡者を災害関連死と分別し手厚い補償を約束する。

もしも高濃度放射線物質が拡散してしまったら、エリアをまず封鎖し、その後は隔離・封印が望ましい。

我々人間の生活や各種の生産行為でのCO2の排出分が全体の40%程度あり、例え全エネルギーが原子力や再エネ機器に置き換わっても、どんどんCO2は増え続けますので、先にCO2削減技術が必要であり、環境にやさしい「木造人工島のブルーカーボン」を国連主導で進めて欲しいとお願いしているところですので、皆様のご協力をお願い致します。